

令和7年度病害虫発生予報第12号（4月予報）概要表

令和8年3月23日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容		
	発生時期	発生量	
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）の移植期防除対策</u>			
（1）スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）			
<u>2 麦</u>			
（1）赤かび病の防除対策			
（2）さび病（コムギ赤さび病、オオムギ小さび病）			並
（3）うどんこ病			並
（4）アブラムシ類			やや多
<u>3 なし</u>	並	並	
（1）黒星病			
<u>4 トマト（冬春栽培）</u>			
（1）灰色かび病			並
（2）葉かび病			並
（3）黄化葉巻病			並
（4）コナジラミ類			やや多
<u>5 きゅうり（冬春栽培）</u>			
（1）べと病			並
（2）うどんこ病			やや少
（3）灰色かび病			やや多
（4）アザミウマ類			並
（5）コナジラミ類			多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>6 いちご (本ぼ)</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) うどんこ病		並
(3) アザミウマ類		並
(4) アブラムシ類		やや多
(5) ハダニ類		並
(6) コナジラミ類		並
<u>7 茶</u>		
(1) チャノホソガ (第1世代幼虫)		並*
(2) カンザワハダニ		並
(3) ツマグロアオカスミカメの防除対策		
(4) チュウゴクアミガサハゴロモの防除対策		

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和7年度病害虫発生予報第12号（4月予報）

令和8年3月23日
埼玉県病害虫防除所

1 水稻（5月中旬までの移植）の移植期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移植前の入水時から移植後3週間まで、取水口・排水口に9mm目合のネットや金網を設置する。 ・ 常発地域では、移植時に薬剤の全面散布を行う。特に貝が集まりやすい深水部には重点的に散布する。 ・ 常発地域では、移植後3週間を目安として浅水管理(水深4cm以下)を行う。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

2 麦

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
赤かび病			<ul style="list-style-type: none"> ・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・現在の生育状況から、適期播種を実施したほ場での出穂期は平年よりやや早まると考えられる。 ・防除適期の目安は、小麦では出穂期の7～10日後、六条大麦では穂揃期、二条大麦(ビール麦)では穂揃期の10日後である。ほ場をよく観察し、適期に薬剤による防除を実施する。
さび病 (コムギ) 赤さび病 オオムギ 小さび病	並	<ul style="list-style-type: none"> ○3月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(±) 	<ul style="list-style-type: none"> ・窒素質肥料の過多などにより、過繁茂となっている麦は発生しやすいため、ほ場をよく観察し、初期防除に努める。
うどんこ病	並	<ul style="list-style-type: none"> ○3月中旬の発生量：散見 □県予察ほ場の発生量：無(±) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(±) 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、止葉を含む上位2葉に病斑が進展する恐れがある場合は、薬剤による防除を実施する。
アブラムシ類	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ○3月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(+) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テントウムシ類等の捕食による密度低減効果を高めるため、天敵の温存を心がける。 ・出穂すると穂に移動して加害するため、多発した場合は出穂前後に薬剤による防除を実施する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

3 なし

病虫害名	発生 予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	発生時期 並 発生量 並	○3月中旬の発生量：無 ■3月19日時点の幸水開花予測：4月3日（平年4月4日）（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・開花から2週間後までの降雨は発生を助長するため、重点的に防除する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌の発現を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。

4 トマト（冬春栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○3月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
葉かび病	並	○3月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
黄化葉巻病	並	○3月中旬の発生量：やや少 □4月のコナジラミ類の発生予想：やや多（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	やや多	○3月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	・施設周辺の除草を徹底する。 ・本虫は黄化葉巻病及び黄化病を伝搬するため、防除対策を実施する。
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・マルハナバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。 			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 きゅうり（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・草勢低下は発生を助長するため、適切な肥培管理を行う。
うどんこ病	やや少	○3月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+） □耐病性品種の作付割合が高い（-）	・やや乾燥した条件により助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・草勢低下は発生を助長するため、適切な肥培管理を行う。
灰色かび病	やや多	○3月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
アザミウマ類	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（+）	・施設周辺の除草を徹底する。 ・本虫は黄化えそ病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	多	○3月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（+）	・施設周辺の除草を徹底する。 ・本虫は退緑黄化病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 いちご（本ぼ）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・草勢の衰えや茎葉の繁茂により助長されるため、適切な肥培管理を行う。
アザミウマ類	並	○3月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	・施設周辺の除草を徹底する。 ・粘着板等によるモニタリングを行い、早期発見・早期防除に努める。
アブラムシ類	やや多	○3月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	・施設周辺の除草を徹底する。
ハダニ類	並	○3月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い（+）	・施設周辺の除草を徹底する。 ・気温上昇に伴い急増しやすいため、注意する。
コナジラミ類	並	○3月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（+）	・施設周辺の除草を徹底する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・ミツバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。 ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。 			

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 茶

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノホソガ (第1世代 幼虫)	並 ^{**}	○3月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(+))	<ul style="list-style-type: none"> 三角葉巻が目立つ前に早めに摘採するか、薬剤による防除を実施する。 昨年秋に発生が多かった園では、特に注意し、観察する。
カンザワ ハダニ	並	○3月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：やや多 (+)) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(+))	<ul style="list-style-type: none"> 「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 一番茶萌芽期が防除時期となるため、発生状況に応じて防除の要否を判断する。 薬剤防除の際は、抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。
ツマグロアオ カスミカメ			<ul style="list-style-type: none"> 「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 一番茶芽の生育初期に、新芽に赤褐色の細かい斑点が生じる被害芽が多く確認されたら、速やかに薬剤による防除を実施する。
チュウゴク アミガサ ハゴロモ			<ul style="list-style-type: none"> 本虫のふ化はすでに始まっていると予測されるため、11月13日に発表した防除情報(参照2)を参考に、産卵された枝の切除やテープでの被覆を行う。 産卵部位を切除した場合、切除した枝をほ場内に放置すると、気温の上昇により切除した枝からも幼虫がふ化する可能性が高いので、枝を土中に埋めるなどして、適切に処分する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：「チュウゴクアミガサハゴロモが多発しています！」(令和7年11月13日)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20251113cha.html>

表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- 並^{**}：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並^{**}」と示しています。
- 多^{**}：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多^{**}」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省） から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和8年3月19日発表)

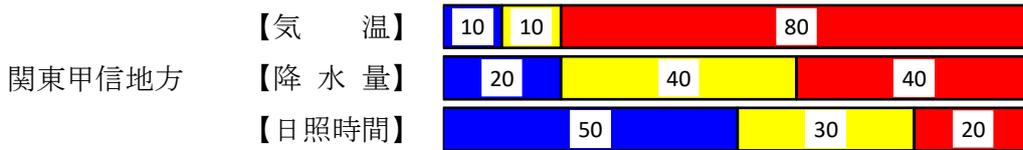
出典：気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000)

<予報のポイント>

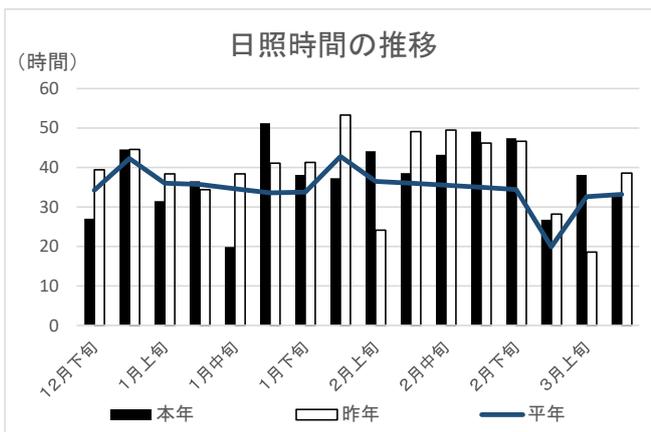
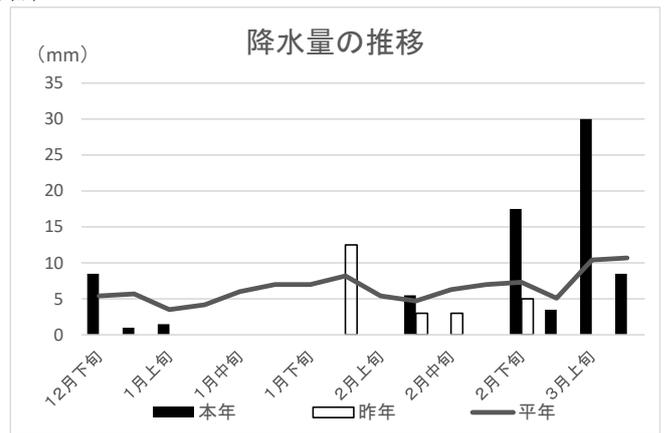
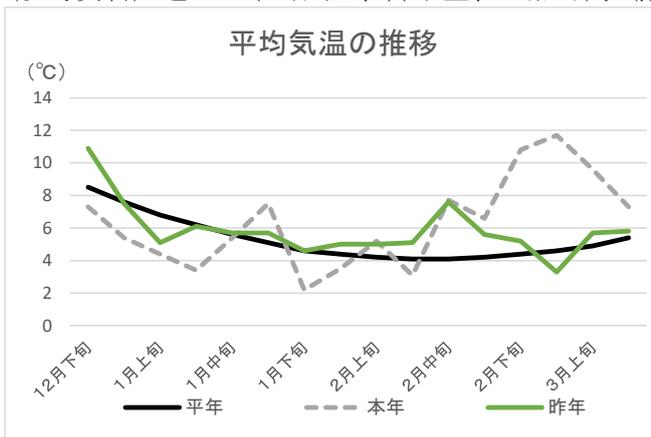
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は少ないでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病害虫防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
 http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/